

ウッド・チェンジ・ネットワーク 第1回会合 議事概要

開催日時:平成 31 年 2 月 27 日(水)10:00~12:00

場 所:農林水産省第3特別会議室

出席者:

(株)セブン-イレブン・ジャパン 開発部 アシスタント総括マネジャー	斯波康弘
東京海上日動火災保険(株) コーポレート運用部 不動産グループ グループリーダー	平野昌史
東京急行電鉄(株) 都市創造本部 運営事業部 事業推進課 課長	村上正洋
(公社)国際観光施設協会 副会長	大内政男
(一社)日本ビルディング協会連合会 事務局 次長	岡本光生
(株)大林組 技術本部スマートシティ推進室 担当部長	赤松伯英
(株)シェルター 常務取締役	安達広幸
(株)JM 取締役 常務執行役員 事業運営本部長	白石正勇
住友林業(株) 住宅・建築事業本部 市場開発部 副部長	佐野惣吉
(株)竹中工務店 木造・木質建築推進本部 副部長	小林道和
ナイス(株) 資材事業本部 木材事業部 国産材振興室 部長	青木良篤
前田建設工業(株) 先進設計開発部 先進第1グループ長	窪崎小巻
三菱地所(株) 住宅業務企画部 主事	柳瀬拓也
(株)久慈設計 代表取締役社長	久慈竜也

ウッドソリューション・ネットワーク(農林中央金庫) 食農法人営業本部 営業第五部 副部長	平山勝英
(一社)日本プロジェクト産業協議会(JAPIC) 専務理事	丸川裕之
全国森林組合連合会 常務理事	飛山龍一
(一社)全国木材組合連合会 常務理事	森田一行
東京都市大学 教授	大橋好光
東京都(全国知事会国産木材活用プロジェクトチーム) 政策企画局 調整部 政策担当課長	松尾憲樹
高知県(全国知事会国産木材活用プロジェクトチーム) 東京事務所 チーフ	小野田勝
国土交通省 住宅局住宅生産課木造住宅振興室 室長	成田潤也
林野庁 次長	本郷浩二
林政部長	渡邊毅
木材利用課長	長野麻子

議題:

- (1) 民間建築物等における木材利用の現状と展開
- (2) 会員企業・団体からの説明・話題提供
- (3) 意見交換

資料:

- 林野庁説明資料
- 会員企業・団体資料

概要:

林野庁次長挨拶の後、林野庁より「民間建築物等における木材利用の現状と展開」について説明。その後、会員企業・団体より説明・話題提供を行い、意見交換を実施。会員企業・団体からの主な意見は以下のとおり。

- 一部店舗では、ロゴマークやカウンター、ゴミ箱などにおいて、イメージの良さから木目調のデザインを採用しているが、実はプリントされたフィルムを貼ったもので本物の木材ではない。木材は、人に優しく、お客様に気持ちよくお買い物していただける環境を作り出せる良い材料であると確信。
- 木造化を進めていく上で、重要な視点はコスト。従来から使用している建材は、清掃性やメンテナンス性、長持ちするという観点で選択していることから、長持ちし、使いやすい店舗用の木質材料を開発する必要。
- コンビニエンスストアの店舗は同じような規模・部屋配置のものが多い。例えば、サイズが規格化された CLT を用いるなど、部材・建材の共通化を図ることで経済的な店舗建築が可能となり、木材を活用してもらいやすくなるのではないか。
- 建物内で営まれる業務形態によっては、建物の独自性が強く、店舗の規格化が難しいものもあると思われ、どのように対応するかが課題。
- 建築物に木材を使うことの分かりづらさへの対応が必要。中高層建築における構造部材の耐火性能や立地条件、建物用途・規模による内装制限の違い等があり、施主にとって非常に分かりづらい。
- 防耐火の規制の運用も、地方自治体により指導が異なることがある。ある県では木造で建てられる規模の建築物でも、別の県では建てられないということがある。
- これまでは、木造建築物は高コストという認識でいたが、実際に整備してみると条件によっては、従来建築と同等かそれ以下のコストであることがわかった。まだまだ「木造が高い」という印象を持っている人が多いものと思料。また、大規模な木造建築を建設できる施工事業者が限られ、それにより工期が厳しくなったという印象。
- 木材の価格は、この 30-40 年の間ほとんど変わっていない。今後、技術革新により木材の高付加価値化が進むことを期待しており、次世代の森林資源を生み出すため、少しでも山元へ資金を還元していただけるとありがたい。
- 鉄筋コンクリート造では、型枠にコンクリートを流して、固まらないと次の工程に進めないため、一般に鉄骨と比べて工期にかなりの時間を要する。また、今は型枠の職人を確保するのも難しいという話を聞く。

- 木材は、山での伐採から始まり、その後製材、乾燥、選定、配送するという工程を経るため、需要者に届くまでそれなりの時間を必要とすることもある。このように、鉄やコンクリートなどの他資材と異なる特徴を有することを理解しておくことが必要。
- 木造の整備コストが高くて、それに見合った付加価値があれば良いと考える。しかし、現在、木材活用による付加価値として議論されているのは、経済的評価ではなく、概念的な木の良さに留まっている印象。例えば、木材を活用した賃貸マンションでは家賃がどれくらいに設定できるのかをデータで示すことができれば、投資に対するリターンを判断できるのではないかと思料。
- 木造4～5階建てのオフィスで、外から見ると木造とは分からない作りであったが、かなり経済的に建てている事例があると聞いた。構造を見せる場合、きれいに見せるための技術や特別な接合用金物が必要となることなどにより、整備コストが高くなってしまわないかと推測。木造建築物を普及させる一つの手段として、木材を見せない設計とする方法があるかもしれないと思料。
- 構造に木材を使うということについて、施主等においてまだ漠然とした不安があるのが現状。木材を使うことのメリットやデメリットについて、コンセンサスや統一的な見解を示すことが重要。
- 木材利用に関する漠然とした不安は、課題等がしっかり整理・分析されていないことから来るものと思料。不安を払拭するためにも、適切に設計された木造が鉄骨造や鉄筋コンクリート造と比べて劣らないことを示す必要がある。建設事業者が個別に取り組んでも解決しないので、このような場で様々な分野の方々が集まって木材利用について議論することが重要。
- 整備コストについては、木造建築物は耐火建築物、準耐火建築物、その他と分けられるが、それら全てをまとめて高いと見なされることが多い。木造の耐火建築物のコストは一般的に高くなるが、準耐火建築物では燃えしろ設計で施工した場合、コストは鉄骨造と同等程度に抑えられる事例も多くあると推測。

以上